

2024年

①

鳩待峠～富士見峠～白尾山～皿伏山～尾瀬沼畔（2日）

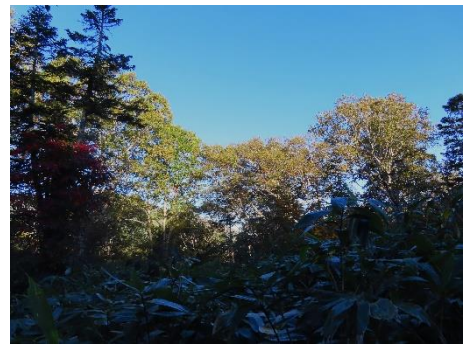
尾瀬沼畔～沼山峠～抱返ノ滝～七入～檜枝岐村（3日）の山旅

尾瀬ヶ原を囲む山々のうち、登山道がつけられている道のすべてを歩きたいと、このコースを選びました。途中で山小屋はなく、一日に15km余を歩かなければならないので、心配でしたが無事完歩することができました。

二日目は、旧会津沼田街道の会津側を歩きました。この道は、一部で倒木や土砂崩れで付け替えられた道を除き歩き易く、深い谷川沿いのいかにも旧道という雰囲気のある良い道でした。新緑の頃、紅葉の頃にもう一度ゆっくり歩いてみたいと思った道でした



鳩待峠の登山口で、登山届を提出して、登山開始。



約1時間は樹林帯を歩く。太陽が高くなって木々の梢に陽射しが届いた。



鳩待峠から2.3kmの道標。地図に「中ノ原」とある場所か。



中ノ原から少し歩くと樹林帯を抜けて、急に視界が開ける。横田代に出たのだ。



横田代を過ぎて小湿原にベンチがあった。そこで小休止。



小休止を過ぎて中原山に向かう。振り返るとさっき休んでいたベンチの向こうに至仏山が聳え立っている。中原山では見晴らしは素通りした。



アヤメ平に着いた。向かう先に燧ヶ岳が見えている。右手奥には、一人の男性が歩いてくる姿が見える。そういえば、さっき横田代で一人の女性とすれ違った。今日、二人目の人と挨拶を交わす。



上の写真。右稜線上に通ってきた道があり、その向こう側がアヤメ平だ。アヤメ平から富士見小屋跡へ下る木道には網状のゴムが貼られていて、たとえ濡れていたとしても滑らず安心して快適に歩くことができるだろう。これはいい。



富士見小屋跡。トイレは故障で閉鎖されていた。そして、富士見小屋は取り壊されていた。



マイクロウェーブのアンテナがある場所までは、車が通れる道だ。この少し先が富士見峠。富士見峠の写真を撮り忘れた。



マイクロウェーブのアンテナの下で、休憩。ここから左に見える細い道に入っていく。



白尾山に到着。記憶では尾瀬沼が見下ろせたはずだが、木が茂って見えなくなっていた。



セン沢田代に着いた。ここで昼食。この標柱の近くに湿原は見えなかった。はて？



苦しい道の途中、目を楽しませてくれた紅葉した鶯の葉。岳樺はまだ色づいていない。

白尾山山頂からセン沢田代に下りつくまでの途中が、標高差200m・水平距離900mの浅い谷をほぼまっすぐ下る道で、思った以上に時間がかかってしまった。



セン沢田代からしばらく平坦な道だったが、皿伏山の登りにかかると急坂になり、ジグザグを幾度か繰り返す。そして突然山頂に出る。三角点があり、少し離れて山頂を示す標柱が立っていた。

(つづく)

# 2024年 鳩待峠～富士見峠～白尾山～皿伏山～尾瀬沼畔(2日) ② 尾瀬沼畔～沼山峠～抱返ノ滝～七入～檜枝岐村(3日)の山旅

この旅に出る前、富士見峠・白尾山・皿伏山・尾瀬沼へのコースの様子を、片品村観光協会に問い合わせました。歩いたのは50～60年前のことですっかり忘れてしまっているし、現在の状況を知りたかったからです。

回答は、このコースは人通りが少なく、皿伏山は平坦で広く、目印のテープはしっかりあるが霧が出ると見つけにくく迷いやすい。風倒木が多数あり迂回したら元の道に戻りづらい。健脚者でも5時間半余の道のりであり、携帯の電波は届かない、何かあった時には自身で対処しなければならない、等々、丁寧なご注意をいただきました。

絶対大丈夫という確信はなかったのですが、当日は良い天気で、前に進むことにしたのでした。



皿伏山の山頂から北側斜面は、広くなだらかになっている。風倒木が至るところにあり、それらを避けて通った踏み跡があちらこちらに付いている。観光協会の方のご注意はこのことだったのだと、納得できた。星さんが注意深く目印のテープを見付けて進んでくれた。霧が出ると見付けにくいし、雨が降ったら地面はぬかるんで難儀であろうと思った。



難儀な道を抜けて湿原に出た。やれ嬉しや大清水かと思いきや、そうではなかった。

ここが大清水。「大」が付くだけあって広い。左には燧ヶ岳が見えていたが、写真を撮り忘れて残念。前には尾瀬沼があるのだが、木々に遮られて見えない。



尾瀬沼は、この樹林を抜ければ、見えてくるだろう。沼畔に出ればほぼ平坦な道になる。



尾瀬沼が見えた。ここからの標高差40mの下りがまた、難物だった。



尾瀬沼を一周する道まで下りてきた。大清水へへの登り口にあった表示。いい道なのに、誰も通れないのは残念だ。



ここは三平峠下。電話が通じたので尾瀬沼ヒュッテに、30分後に着きます、と電話。



尾瀬沼と燧ヶ岳。ススキが秋を伝えてくれている。



今日の宿、尾瀬沼ヒュッテに着いた。午後3時ちょうど。今朝6時15分に歩き始めて約9時間。よく歩き通せたものと、自分の体力に自信が持てた山行だった。

風呂から出て缶ビール1本。夕食時に生ビールジョッキ1杯。部屋に帰って酒を少々飲み、早やい時間に眠りについた。

明日は5時に起きてパッキング。7時には出発しよう。

10月3日(木)

パッキングを終えて、食堂へ。食事を終えると少し早めに小屋を出ました。尾瀬沼で写真を撮りたかったからです。燧ヶ岳は霧のような雲のようなもので隠されていました。



←大江湿原を後ろにおいて、我々がLGCの旗を掲げて記念写真を撮る。



大江湿原の三本カラマツの下を行くハイカー。



ヤマドリゼンマイが赤く紅葉していた。



←奥が大江湿原。湿原の植物を守るために、鹿が入り込めないよう柵が設けられていた。



←沼山峠を示す標識は何もないから、この辺りで一番高い場所が沼山峠だと、歩くたびに思っている。

沼山峠から15分で沼山峠バス停に着く。七入に下る旧街道の会津側の道は、休憩所の左側にある。



バスの運転手さんがこれからどちらへ行くかと話しかけてきた。七入だということ、次のバスは七入バス停を10時45分頃通ると教えてくれた。2時間20分ある。よし、そのバスを捕まえよう。

(つづく)



旧会津沼田街道へは、バス停からこの斜面を下って、入って行く。



広く歩きやすい道だ。いかにも旧街道の雰囲気漂う。小さい祠が祭られているのも古の人の心が感じられる。



30分でここに。気は急ぐが見たいと思っていた滝なので滝に向かって降りる道を行く。



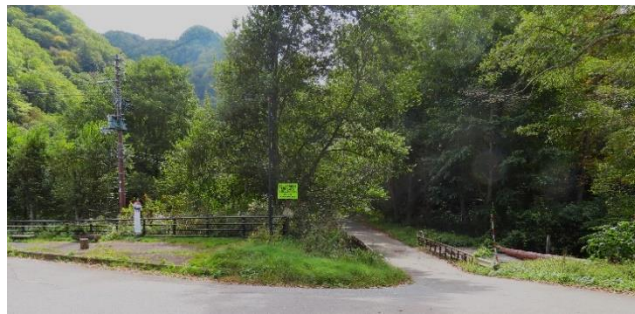
抱返ノ滝。“だきかえりのたき”と読む。あまりに可愛くて抱いて帰りたい？



抱返ノ滝から15分ほど歩いて、道行沢橋五番橋という標識と小さい谷川を渡る橋に出会う。地図上では確認できないのだが、四番を見落とし、三番、二番、一番と五つの小橋があった。そのたびに道行沢を左岸に渡り、右岸に渡り、する。道行沢は“みちぎざわ”と読む。



硫黄沢橋。ここは地図上で確認できる。まもなく七入山荘があり、その先が七入バス停だ。あと一息。



七入バス停に着いた。10時40分。どうにかバスに間に合った。横の道路は国道352号線。奥に向かう道路は七入山荘への道。その先は沼田街道へと続く。



左の写真のすぐ右手にこの標識。御池古道は七入山荘手前で右に向かうように地図にはある。

この時間に通過するバスを教えてください。バスの運転手さんに会うのを楽しみに、バスが来るのを待っていた。そこに檜枝岐村の方から上ってきた車が止まって、どこへ行くのかと我々に問いかけてきた。

檜枝岐へ行って蕎麦を食べるつもりだと答えると、乗せていきますよと言う。反対方向だしバスがもう来る時間なので、ありがたく思いつつお断りしたが、ちょっと前に通過したのだから戻ってきて声をかけてくれたのだと。それを聞いて、ありがたく乗せていただくことにした。

走り出してから、長岡ナンバーである意味を聞くと、小出にある会社から設備の点検のためあちこち走り回っているのだが、我々のような登山者の姿を見るといつも声をかけて乗せているのだそうだ。

日帰り温泉の“燧の湯”まで送ってもらった。

J-POWERの社員さん、お名前もうかがわず、失礼しました。ありがとうございました。



“燧の湯”に11時に着いた。静かで一瞬休館日かと思ったが、地元の人が一人、入りに来た。11時開館だった。その人は我々が脱衣所で入浴の準備をしているうちに、出て行ってしまった。湯船の右側、ガラスの向こうが露天風呂。すぐ前に樹木が迫り、下には舟岐川が流れている。入浴料1,000円。



2022年10月。燧ヶ岳から下りてきたとき、御池からの終バスに乗り遅れて、大変お世話になった“かどや”さんで、お礼方々屋食にビールと蕎麦を頼んだ。

今回は旧街道を歩いてきました、素晴らしい道でしたと、話して店を後にした。

今回のコースは、年齢・体力的に無理かとも思ったのですが、ぎりぎりですべて完歩することができました。同行の星 富夫さん、ありがとうございました。

立ち止まって写真を撮る余裕がなくて、あの場面を撮っておけばよかった、というところがたくさんあります。

今後も緩くて楽しめる山へ一緒に行きましょう。とは言いながら、まだまだ山を楽しむことができそうだ、という自信を持って山旅でした。